

# 一 質

4名の議員がこん



**堆肥センター、尾鈴畑  
かん問題、完全米飯給  
食を問う**  
内藤 逸子

**堆肥センター立地協定と  
利用状況について**

**問一** 畜糞処理量は、平成16年度2万700トンをピークに、一日当たり27トンの利用状況です。

山有は、利用の減少は町の指導の弱さなど指摘し、鶏糞の規制や畜糞以外の有機性廃棄物の取り扱いを求め、平成17年8月取扱い物件に係る協議書を締結、利用組合との基本契約書に示している施設規模や、取扱量など実情にそう改定を行い、地域環境の悪化をきたさない厳正な指導をすべきではないでしょうか。

**答 町長** 協定の解釈の



給水栓

違いから地元との協議の課題があるが、協議書は破棄する考えはない。協議を必要とする事項を提案し、協議をしていきたい。

**農家の施工意志尊重**

**問二** 平成7年9月公布された国営事業の同意を促す町長の確約書を信用

して施工同意を取得したのが原点です。

今説明している給水栓の開閉栓方式は、県営事業同意の条件として、農家の意志を表す施工同意を省略するもので、町長の確約書の空文化、又無視にほかなりません。

国や県が指導しているのか、県営尾鈴北第一地区に僅か5分の1の給水栓では事業目的が疑われる。

特別徴収金の対象にもなりかねません。これが開閉栓方式の狙いではないでしょうか。

**答 町長** 将来の畑作営農の観点から、選択できるシステムが開閉栓方式だ。

**完全米飯給食を**

**問三** 学校給食法の目的

は「児童生徒の心身の健全な発達と国民の食生活の改善に寄与する」とし、その目標は「食糧の生産、流通、消費について正しい理解に導く」としています。

学校給食の主食を輸入小麦に頼って良いのか、一日も早い完全米飯給食の実施を。

**答 教育長** 完全米飯給食の実現を目標にしていきたい。



事は、前向きに検討したい。

**肺がんが増えていきます**

**問二** 川南町では昨年192名の方が亡くなっているが、死因の第1位は悪性新生物、いわゆるがんで48人、そのなかでも肺がんが一番多く13人で、がんによる死因の27.6%をしめている。

しかし、胃、大腸、子宮、乳、前立腺など、他のがん健診は実施されているのに、一番多い肺がん健診が実施されていないのはなぜか？

**答 町長** 以前は胸部レントゲンとたんの検査をやっていたが、有効性が疑わしいという事でやめている。近年中に発見率が高いといわれるヘリカルCTでの実施を考えた。

※ヘリカルCTとは

体の廻りをらせん状に高速で撮影できる最新のX線CT装置。従来の胸部X線撮影に比べ、早期の小さな肺がんも見つけられる。



**問三** 新型インフルエンザの感染が報道されているが、感染対策は考えているのか？

**答 町長** 対策本部は設置した。近隣の感染状況にあわせて検討し、県と連携をとりながら対応したい。

発熱相談センター、発熱外来など設置してある。

